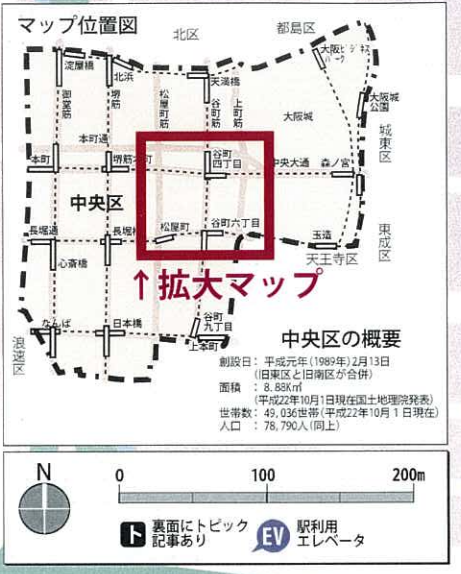


なにわのみや  
**坂の町 難波宮周辺の暮らして文化**  
 難波の発祥の地～大江地区「南大江編」



**1** 中央大通、法円坂付近から東を望む、阪神高速が一度地上に下がり、中央大通と同じ高さになっています

**2** 農人橋  
 中央大通ができる前は、ここには大きな坂がありました。生國魂神社さんの夏まつりのだんじりも、一気に登れなかったほど！

**3** 谷四路郷公園  
 昔、ここには南大江尋常小学校の女子校がありました

**4** 南組惣会所跡と南大江小学校跡の碑が並んであります

**5** 大村益次郎の碑、上町の交差点、北西角にあります

**6** 大きな擁壁が道路に沿って続く

**7** 難波宮跡を望む  
 法円坂交差点から難波宮跡を見たところ、昭和29(1954)年の調査で宮跡の存在が明らかに。今も不明な点もあり、発掘が続けられています

**8** 南大江公園  
 南大江公園内、毎年1月に行われる「とんど祭り」青竹組の火柱から出る「とん」という大きな音は、大迫力！狸坂大明神のほか、火の神様の「火産(ひむす)豊大神」や、熊野王子の「朝日神明跡碑」もある

**9** 骨屋町筋  
 昔の狸坂はこの辺りにありました

**10** 水呑地藏  
 水呑地藏は、おたぬきさんで火事が起こらないようにお祀りしています

**11** 太閤下水の上をつくられた通り抜けできる通路、街灯もついています

**12** 太閤下水見学場所  
 南大江小学校敷地西側に太閤下水を見学。「あつ」水が流れている！

**13** 御蔵筋  
 熊野街道はここで東に曲がり、安堂寺町通をとります

**14** 路地カフェ  
 路地カフェに入る路地の入口を見逃さないで！

**15** 銅座公園  
 銅座公園の桜は必見！様々な地域行事も開催されています

**16** 大規模な家屋  
 大規模な家屋が並んでいて、上町A、B、Cの住居表示

**17** 防空壕が残る店  
 上町筋沿いのこのお店には、5人程入る大きさの防空壕が残っています

**18** 大規模な家屋  
 軍人の親類や友人に会いに行く人向けの土産物店が並んでいた

**19** 龍造寺町の路地  
 龍造寺町は、豊臣時代の武将の名前とされています

**20** 安堂寺町通界隈の夜店  
 戦後まで、馬が坂で滑らないように、木レンガが敷き詰められていました

**21** 伊勢への道標  
 境内にある伊勢への道標。隣には南組相統講の碑が並ぶ

**22** 伊勢への道標(文政4(1821)年)

マップでは伝えにくいけれど、歩いてみると、階段や坂がたくさんあり、アップダウンの多いまちだと実感します。昔から残っているものもあるから、「どうしてこうなっているの？」と考えながら散歩してみると、楽しいかも！

普通のマップとはひと味違う「ガイドナビ」誕生のヒミツ  
 「区内には地元の人だけが知っている情報がたくさんあります。ぜひ伝えたい」と、市民のボランティア活動として、中央区わかまちガイドナビが誕生しました。市民の力を借りながら、区内の魅力を伝える「中央区わかまちガイドナビ」が誕生しました。市民の力を借りながら、区内の魅力を伝える「中央区わかまちガイドナビ」が誕生しました。市民の力を借りながら、区内の魅力を伝える「中央区わかまちガイドナビ」が誕生しました。

「ガイドナビ」をご活用ください！  
 「このガイドナビを持って、実際にまちを歩き、もっと中央区を知ってほしい」という思いから、ガイドナビが誕生しました。市民の力を借りながら、区内の魅力を伝える「中央区わかまちガイドナビ」が誕生しました。市民の力を借りながら、区内の魅力を伝える「中央区わかまちガイドナビ」が誕生しました。





難波津と上町台地という優れた立地は、坂の多いまちに武士と町人が共存、共栄する豊かな暮らしを育みました。今でもこの辺りを歩くと、坂や路地、風景、地名などから、積み重なった暮らしの歴史を感じることができます。

【中央区史跡文化事典】

に詳しい解説があります。※本文中にも注釈で案内しています。中央区役所で配布していますので、ぜひ手にとってご覧ください。



### 上町台地の西斜面

## 坂のある風景

難波津に突き出した上町台地。政治の要衝の地として歴史を重ねたまちで、昔も今も変わらないのは坂のある風景です。

#### 難波津に突き出した上町台地に造られた「難波宮」

「難波津に 咲くやこの花ぞもり  
今は春へと咲くやこの花」  
この歌は仁徳天皇即位の時に、百濟から来た王仁(わに)博士が詠んだといわれています。仁徳天皇は、4世紀初めの人で、このころから難波津があり、4〜10世紀にかけて、日本を代表する国際港だったことがわかっています。  
さて、「難波」と書く現在の人は「なんば」と読む人が多いのですが、語源は、太古の時代の「難波津(なにわつ)」で、文字通り、波が荒かったことを示していました。波が荒かったため、舟は上町台地を迂回して、玉造から上がったほどでした。「なにわつ」という言葉は、南大江小学校の校歌にも使われています。右図の浪花古図を見ると、川の西の岸にあるので、「大江の岸」とよばれたのがよくわかります。今の松屋町筋から東回りと思われる。

#### 坂のある風景「いま」むかし」

大江の辺りを横断する中央大通は、戦後の都市部への交通をスムーズにするため、昭和30年代にできました。阪神高速と共にまちを分断するこの道路ができる前はどんなまちだったのでしょうか？  
フィールドワークで法円坂周辺を歩くと、大きな擁壁(ようへい)壁の見える道や段数の多い階段がありました。実は中央大通ができる前は、大きな坂があったんです。  
「生國魂神社夏まつりのだんじりを通る時は苦労したわ。坂がきつくて登れなかった。」と語る推進委員の村上さん。中央大通ができたことにより、そのレベル差がなくなりました。それでも上町筋から松屋町筋のエリアには、今でも自転車ではキツイ坂がありますね。



新修大阪市史第1巻 図34「浪花古図」より地図中央に「大江の岸」と書いてあります

#### 高速道路も難波宮には遠慮？

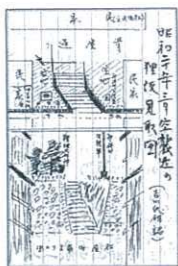


法円坂交差点から東を見る。左は阪神高速、中央大通、右は難波宮跡

先ほど、中央大通が開通されたことにより、坂が少なくなったと述べましたが、昭和45(1970)年に阪神高速が開通すると、また風景が一変しました。  
ところが法円坂付近は、一旦高速の高さが低くなっています。それはなぜなのでしょう？  
法円坂は、難波宮の北側にあたるため、阪神高速建設の際、地下に埋もれている文化財を避けるように、壊さないように、基礎をできる限り小さくしました。阪神高速の高さを一旦、地上レベルにしているのが法円坂です。こういった理由のため、南大江辺りからは今でも、大阪城がよく見えています。

#### 狭くて急な坂「狸坂」

タヌキがいる？「狸坂」  
南大江公園から南西へ10mいったところに昔「狸坂」という坂がありました。松屋町筋から1本東に入るには、ご存じの通り急な高低差があります。幅が1mと狭くとても急なので、横に生えている木や竹につかまりながら歩いたとのこと。



昭和20年空襲時の狸坂見取り図

#### おたぬきさん

南大江公園の中にある「おたぬきさん」と親しまれているとでも珍しい神社、地元の人に聞くと、「『おたぬきがおったから、だまされて、帰るのか遅くなった』という言い訳を、大人も子どももみんな使ったなあ」という声も。なぜ公園の中にあるのでしょうか？  
明治時代から神明神社をまつていましたが、戦時中、飛行機が墜落し焼失しました。また、昭和30年代後半、この辺りでよく火事が起こりました。昭和41(1966)年に狸坂にあった狸坂大神社の社を公園の中に再建。それ以来、火事がなくなったことから、毎年お祭りを開催しています。

### 自治・産業・文化

## 暮らしの足跡

江戸時代に全国から集まった職人や商人。町人は武士とともにまちをつくり、自治を組織しました。

#### 町名に刻まれた地域の由来

伏見城から移り住む職人、町人が多かったことはよく知られています。地名の由来には、諸説があり、当時の暮らしやまちなみの様子がうかがえます。  
地図面には、由来のある地名に説明書きを加えています。住居表示やまちなみを見ながら、昔の面影を感じながら歩いてみては？

#### 町人による町人のための自治「南組惣会所」

奉行所との橋渡し〜惣会所  
江戸時代の大阪は、幕府の役人が支配していました。でも役人が少数だったため、町人が自治を運営し、幕府の補完をしていました。600余りの町がありましたが、それらは「大坂三郷」とよばれ、幕府から町人による自治が認められていたのです。



「元禄の頃には、南都大坂は620町となり、人口は最高となり、42万人(内、武士家族は1万人、98%が町人)でした」

#### 「惣年寄」は、地域の代表者？！

南組惣会所をはじめ、各惣会所では、数名の町人の代表者である「惣年寄」が、町奉行からの触(ふれ)を町へ伝達したり、船や消防活動の管理など、町の暮らしを支えるための仕事をしていて、幕府との接点となっていました。「惣年寄」は今でいうと「連合会長」にあたるような地域の代表者でした。  
こういう形で町人による自治体制がとられていたと考えたら、昔も今も、地域で住んでいる人が地域を守り、維持していたんですね。  
南組惣会所は、本町10丁目(現、4丁目)に発足しました。その碑が、今の南大江保育所の敷地内にあります。  
まとめてみると、当時の構図は、

【大坂城代・大坂町奉行・惣年寄・町年寄・町民(町人・借家人)】という体制になっていたのです。(右上に続く)

#### 耳寄りばなし 「大村益次郎」前で会おう！

南大江で待ち合わせするなら…「あの大きな石碑で。でも、あの石碑はいったい何の碑なのでしょう？？」  
難波宮跡西南の上町交差点に面して建つ巨大な碑に、医学、兵学等の秀才、「大村益次郎」の像が描かれています。松下幸之助さんが大村益次郎の像が描かれていなければ、碑の巨大さにも納得できませんね。  
大村益次郎が治療を受けた浪華医院があった当地に碑が建てられました。また、この大村益次郎は、近代陸軍軍医を確立させ、人の育成に尽力した人です。  
※詳しくは「中央区史跡文化事典「大村益次郎卿殉難報国の碑」を参照」



凹凸のある像は迫力があります 発起人には有名な人の名前も…

(左下からの続き)  
「惣年寄」の下に各町ごとにあった「町年寄」は、奉行所からの触書(情報)を町中へ伝える、火元の取り締まりと火の用心をする、訴訟事件の調停・和解役をする、家屋敷の買受・譲渡に関わる書類を作成する、諸役銀(武家時代の雑税)を徴収する、水帳絵図などの書類を作成・保管する、町や橋や浜先の掃除をする、……という、とても忙しく様々な仕事があったとのこと！  
今の町会の仕事のほか、役所的な機能もあったことがわかりますね。

#### 軍事産業から発展したメンズファッション

大化の改新後に築かれた壮大な都、難波宮ですが、その場所が特定されたのは、昭和29年から始まった発掘調査によるもので、意外と最近のことをご存じでした？  
ただ、大江の地で育った「難波」の地元の方々に聞くと、この地の想い出は、歩兵「第八連隊」がいたことだそうです。現大阪家庭裁判所のところに連隊長の官舎があり、出退勤時には馬に乗った連隊長さんをよく見かけたという、今では想像もつかない光景が見られました。また、戦後はメンズファッション産業で栄えた谷町筋隈ですが、その技術はもともと軍服の製作から発展したのです。



法円坂にあった「第八連隊」(国立国会図書館 蔵)

#### いつでも見れる！歴史ロマンあふれるスポット

南大江小学校の正門近くで、豊臣に起源をもつ建造物を見ても見ることのできる場所があります。  
明治の下水道改良工事で改良が加えられましたが、今も現役に活躍中！区民が使った下水を西へ流しています。昭和60(1985)年に地下に埋もれている太閤下水を見えるようにと、地域からの要望で整備されました。また、大阪市文化財の指定を受けたのを契機に、平成18(2006)年度に、いつでも見れる「のぞき窓」ができました。上から見ると、深さ約2m幅約2mの石組の水路に、東(大阪城)から西(東横堀川)へと、淀(よど)みなく水の流れる様子が見えます。フィールドワークでも「あるのは知っていたけど、実際見たのは初めて」という人が多数。  
皆さんも、一度足をとめて、のぞいてみてください。

#### 大槻能楽堂

【舞台を楽しむ3つのヒミツ】  
難波宮跡の南側にある500席の定席を持つ大槻能楽堂は、昭和10年に大槻十三氏により設立された大槻清顕能楽堂が、建て替えられたものです。中に入るとスケールの大きさと静けさに、自然と背筋がピンと張りつめます。  
舞台正面の「鏡板」の松に描かれた豚の鼻のような節、大阪城が一番大きな石垣を写してつくられた「橋掛(登場人物が歩く橋)」の背景、そして、「どうして舞台床を軽く足で踏んだだけで、大きな音が出るんだろう？」という謎を解く、舞台上の十数個の藁(かめ)。感動と驚きの中で、冷静に舞台を楽しむ3つのヒミツです。  
ただ、音響に優れた空間は、感嘆の声も、ひそひそ話もよく聞こえますからご注意ください。広報担当の松田さん談。

### 引き継がれ、育まれる

## 地域の取組み

町人文化って昔の話だね。いやいや、今の時代に受け継がれ、現在の住民ニーズに応じた新たな取組みも始まっていますよ。

#### 歴史を伝え、地域活動を育む南大江小学校下

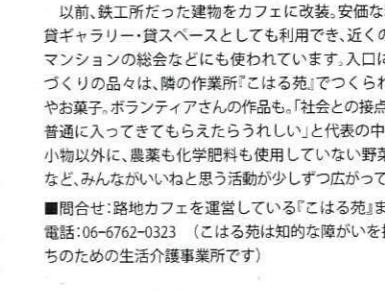
ブルーの制服で地域を守る  
南大江校下では、小学校を拠点に活発に地域活動が行われています。そのひとつが毎年開催されている、地域文化祭「たんばの会」。手作り作品の展示、歌や演奏、ダンス、民謡、その他舞台披露などを通じ、新しく区民になった方々との接点の場となっています。  
平成22年12月にスタートされたのが「グリーン作戦」。写真のようにブルーのウインドブレーカーを着たメンバーが清掃活動、子どもたちの見守り活動を行っています。町に安全と安心がひろがってほしいという思いから、一致団結した取組みがはじまったのです。



南大江グリーン作戦 総団式

#### 地域のサロン「路地カフェ」

谷町筋からそと導くようにつくろ地路の奥に、お洒落なカフェがたたずんでいます。「地域の人が気軽に集えるように」と工場を改装してつくられた、その名も「路地カフェ」です。  
以前、鉄工所だった建物をカフェに改装。安価な料金で、貸ギャラリー・貸スペースとしても利用でき、近くの町会やマンションの総会などにも使われています。入口に並ぶ手づくりの品々は、隣の作業所「こはる苑」でつくられた作品やお菓子。ボランティアさんの作品も。「社会との接点として、普通に入ってきてもらえたらうれしい」と代表の中野さん。小物以外に、農業も化学肥料も使用していない野菜の販売など、みんながよいねと思う活動が少しずつ広がっています。  
■問合せ：路地カフェを運営している「こはる苑」まで。電話：06-6762-0323 (こはる苑は知的な障がいを持つ人たちのための生活介護事業所です)



かつての工場の構造を活かしてつくられた広々とした静かな空間

#### 熊野街道の風情を残す安堂寺町の街並み

安堂寺町通はメインストリート  
八軒家浜から南下する熊野街道が東に折れる通りが、安堂寺町通。東へ少し進んだところで、再び南に折れると熊野方面へ、そのまま東へ向かうと伊勢や奈良方面へと向かうことになる。かつては東西のメインストリートでした。



東西のメインストリートだった昭和30年代の安堂寺町通

#### 「踊り踊るなら〜」の安堂寺町踊り

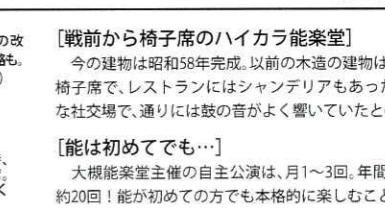
人が行き交うところ賑わいあり。安堂寺町通は、かつて夜店やお祭りで賑わっていました。祭りは昭和25(1950)年頃から8年ほど行われ、キーパーソンは「Bar Berジロー」のジローさん。ジローさんは役者の知り合い(文楽座など)が多く、有名人が芸を披露。またこの辺りの、土地柄な持ちさん(地主さん)も多く、祭りの日には仮装パーティのように衣装をこしらえて、盛り上がったとのこと。寶泉寺の入口のすぐ西の道路に檜(やぐら)を組んで、その横で輪を作って踊っていたそうです。



仮装パーティのように盛り上がった安堂寺町通での祭り

#### 安堂寺町通の夜店復活！

かつての賑わいが平成21(2009)年の夏、8月に復活しました。きっかけは昭和の祭りの写真が出てきたことから。安堂寺町に設計事務所を構える内田さんを中心に、地域の方の協力のもと、写真を収集、沿道に昔の写真の展示やスライド上映、さらにオカリナ、ピアノ演奏などで昔話に盛り上がる夜店が復活しました。  
昔の夜店では、みんなで「安堂寺町踊り」を歌い楽しんだと聞き、その安堂寺町踊りの節(歌詞)をイベント案内チラシに掲載したところ、「昔をよく知る方から『この言葉は違うよ』とつぶやきを受けるなど反響の声が広がりました」と話す内田さん。推進委員の米谷さんもその節を覚えていたとのことでした。  
安堂寺町界隈の古い写真収集は継続中。心当たりのある方はぜひご連絡を！  
■安堂寺町界隈で近所プロジェクト  
問合せ：06-6761-5146



内田さん

#### 「戦前から椅子席のハイカラ能楽堂」

今の建物は昭和58年完成。以前の木造の建物は、当初から椅子席で、レストランにはシャンデリアもあったハイカラな社交場で、通りには鼓の音がよく響いていたとのこと。

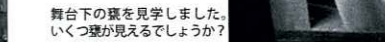
【能は初めてでも…】  
大槻能楽堂主催の自主公演は、月1〜3回。年間になると、約20回！能が初めての方でも本格的に楽しむことができる「お話」も一緒にある公演もあるとのこと。一度気軽に能楽堂に行ってみては？  
■大槻能楽堂 http://www.noh-kyogen.com  
電話：06-6761-8055 住所：中央区上町A-7

#### 大槻能楽堂

建設できた当時、珍しかった椅子席。小さな声でもよく響きます



建設できた当時、珍しかった椅子席。小さな声でもよく響きます



舞台上の藁を見学しました。いくつ響かえるでしょうか？